

学校教育目標	自ら心豊かにかかわり、ともに認め合い、高め合いながら学び続ける荏田西の子 ○進んで学習に取り組む、自分の考えを深め、豊かに表現できる力を育てます ○感謝や思いやりの気持ちと善悪を判断する力を育み、自他を大切にできる態度を育てます ○命の大切さを知り、心身ともにたくましく生きる力を育てます ○人や自然、荏田西のまちを大切に、地域や社会のために自ら実践できる子を育てます ○様々な人とのコミュニケーションを通して視野を広げ、他者と豊かにかかわる態度を育てます					
	創立 35 周年 児童生徒数: 687 人	学校長 矢崎 純一 主な関係校: 市ヶ尾中学校 東市ヶ尾小学校	副校長 阿部 直子	2 学期制	一般学級: 21	個別支援学級: 5

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	市ヶ尾中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈対話力〉 〈問題発見・課題解決する力〉 〈自分づくりに関する力〉	市ヶ尾中学校 荏田西小学校 東市ヶ尾小学校	多様性を認め合い、人とのつながりを大切にできる子ども 笑顔とあいさつがあふれる子ども ・9年間で育てる子ども像を目指し、学校運営協議会と地域、教職員が一体となって取り組む。 ・児童理解を深め、誰もが安心して学ぶことができる環境整備を推進する。 ・様々な教育活動場面で子どもの対話力と他者との調整力を育み、主体的な学び手を育む。

中期取組目標	○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、授業改善を推進し対話的、探究的な学びの充実を図ります。 ・1年目は学ぶ楽しさを味わうことができる単元構想と授業づくりを推進します。 ・2年目は学習場面で対話力の向上を推進し、伝え合う力を育みます。 ・3年目は自ら「問い」をもって探究し、対話を通して自分の考えを深めることができるようにします。 ○まちの「ひと」とのつながりを大切に、荏田西のまちやひとから学ぶ体験を通して、荏田西のまちを大切にできる心を育みます。 ○日々の観察と児童の振り返り、調査の結果をデータ化し、それを活用しながら、子ども一人ひとりの成長や変化を捉え、学びの充実を生かします。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①目指す資質・能力を教師が明確にし、子どもが自ら問いを見つけ、学びを選択しながら、主体的に対話を通して授業を進められるようにする。 ②ICTを活用して子どもが自らの学びを効果的に振り返り、自分の認知を客観的に認識できるようにする。
担当	授業改善部	
徳	道徳教育	①道徳教材を子どもの実生活や将来の生き方につなげるため、問いの工夫や振り返りの充実を図り、自分の考えを深めたり行動につなげたりできる授業づくりを行う。②豊かな心の育成を目指し、道徳科を核に、教科・行事・生活と関連付けた指導で、行動につながる道徳性を育成する。
担当	道徳推進教諭・道徳部	
体	健康教育	①生活や運動を振り返り、課題を自分で設定し改善に取り組む力を育てる。 ②危険予測を具体的な行動につなげ、けがや病気を予防する実践力を高める。 ③運動集会を工夫し、楽しさを通して日常的に体を動かす習慣を定着させる。
担当	体育部・健康教育	
公開	自分づくり教育	①他者との関わりの中で、自分の思いを表現したり、自分の役割を果たしたりしながら、一人ひとりが自己有用感を高めるようにする。②「自分づくりパスポート」を活用して、よりよい自分を思い描き、実践することで自らの成長を実感できるようにする。
担当	特別活動	
いじめへの対応		①いじめについて考え、話し合う機会を設け、自身が未然防止への取組を自分事に行えるようにする。②毎月定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知案件の経過確認を行い、共通理解と再発防止に努める。③毎日の健康観察や児童アンケートで些細な変化を見逃さない体制をつくる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		職員研修では、職員の学びたいニーズや、今必要なことに合わせた研修を設定し、日常の実践を広く紹介したり、普段の実践につなげたりできるようにする。
担当	働き方改革推進	
特別支援教育		①児童の特性に応じた指導・支援の充実と特別支援教育の推進を図る。 ②外部機関と連携した支援体制を構築し、教育活動を見直ししながら、すべての児童が学習に参加できる環境づくりとICTの効果的活用を推進する。
担当	特別支援教育	
児童指導		①児童の規範意識向上に向け、スタンダードの共通理解のもと指導し、現状を踏まえた改善を図る。②Y-Pアセスメントを活用し、多面的な児童理解と具体的支援を実践する。③不登校児童の思いに寄り添い、学習支援を検討し学びの継続を図る。
担当	児童支援委員会	
地域学校協働活動		b9①地域学校協働本部と連携し、地域素材・人材を体系化し年間計画に位置付け、学習連携を一層高める。②地域人材活用を広げ、授業や体験を通じ地域とかわる機会を増やしていく。③アンケート分析を基に中学校ブロック・地域と連携し、あいさつ運動を強化し着実に定着を図る。
担当	学校地域交流委員会	
多文化共生		①子どもの興味を生かし、外国の言語や習慣、食文化などを学び、多文化共生への理解を深める取組を進める。 ②外国につながる児童の実態を的確に把握し、特別の教育課程を工夫して、日本語能力向上を継続的に支援する。
担当	国際理解・姉妹港交流	